

探してみよう！田んぼの生きもの

田んぼには害虫以外にもいろいろな生きものがあります。天敵など農業に役立つ生きものを中心に、滋賀県の田んぼで比較的多く見られる生きものを紹介します。

田植～梅雨期に主に見られる生きもの



ニホンアマガエル
体長 35mm

ニホンアマガエルの幼生

トノサマガエル 体長 60mm

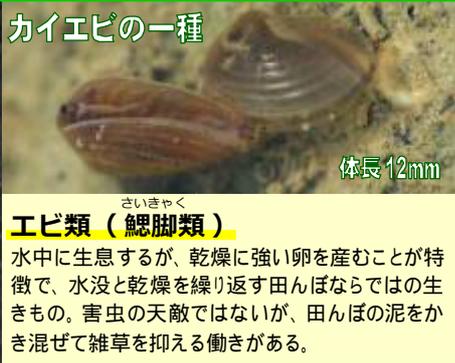
カエル類
成体は肉食で、ウンカやヨコバイ、ガの幼虫などの害虫をよく食べる。ニホンアマガエルは乾燥に強く、稲の上までよく登る。トノサマガエルはあぜ草や水中に潜むことが多い。

成体になりたてのニホンアマガエル



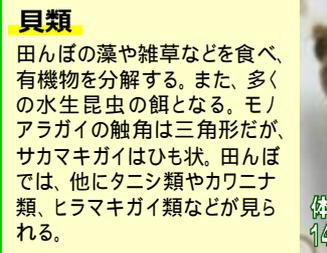
カフトエビ
の一種
体長 30mm

ホウネンエビ
体長 18mm



カイエビの一種
体長 12mm

エビ類（鯁脚類）
水中に生息するが、乾燥に強い卵を産むことが特徴で、水没と乾燥を繰り返す田んぼならではの生きもの。害虫の天敵ではないが、田んぼの泥をかき混ぜて雑草を抑える働きがある。



貝類
田んぼの藻や雑草などを食べ、有機物を分解する。また、多くの水生昆虫の餌となる。モノアラガイの触角は三角形だが、サカマキガイはひも状。田んぼでは、他にタニシ類やカワニナ類、ヒラマキガイ類などが見られる。



モノアラガイ
の一種
体長 14mm

サカマキガイ
体長 14mm

水生昆虫類（カメムシ目・コウチュウ目）
水を張る田んぼならではの昆虫で、他にも数多くの種（しゅ）が田んぼに生息する。肉食性の種が多く、水面に落下した害虫も食べる（ガムシ類の成虫は植物食）。タイコウチ、コオイムシ、アメンボ類、マツモムシはカメムシ目。ストロー状の口を餌に差し込み捕食する。ゲンゴロウ類やガムシ類はコウチュウ目で、幼虫は成虫と姿が異なる。



卵を背負ったコオイムシのオス
体長 18mm

タイコウチ
体長 35mm

体長 10mm

マツモムシ
体長 13mm

ヒメアメンボ
(コモリグモを捕食中)

ホンヒメヒラタアブ
体長 6mm



シマゲンゴロウ
体長 15mm

ヒメゲンゴロウ
体長 11mm

コシマゲンゴロウ
体長 10mm

ガムシ類の幼虫

ガムシ類の卵のう

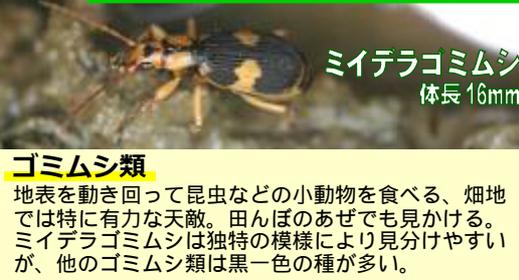
オタマジャクシを捕食するゲンゴロウ類の幼虫



ハナアブ類
黄色と黒のしま模様が目立つハエの仲間。ハナアブ類の幼虫はアブラムシを食べる種が多い。成虫は花に集まる。初夏にはあぜ草の花をよく訪れており、イネの出穂後は田んぼの中でもよく見られる。

(花：ミンカクシ)

(花：スカシタゴボウ)



ミイデラゴミムシ
体長 16mm

ゴミムシ類
地表を動き回って昆虫などの小動物を食べる。畑地では特に有力な天敵。田んぼのあぜでも見かける。ミイデラゴミムシは独特の模様により見分けやすいが、他のゴミムシ類は黒一色の種が多い。



クサカゲロウの一種
体長 26mm

クサカゲロウ類
幼虫は、アブラムシやハダニなどの害虫をよく食べる。畑地では有力な天敵で、人工的に増殖されて天敵資材として市販されている。

「ただの虫」と呼ばれていますが…
田んぼに住んでいるが、害虫でも天敵でもない生きものは「ただの虫」とよく呼ばれます。しかし実際には、「ただの虫」も農業に役立っています。ヒゲナガヤチバエの卵やユスリカ類は、害虫が少ない時期であっても天敵類の貴重な餌となります。また、トビムシやイトミズなどは有機物の分解などの重要な役割を担っています。「ただの虫」でも、生態系の維持や自然の物質循環に必要な、田んぼに欠かせない存在です。

体長 10mm 体長 3mm

ヒゲナガヤチバエ

ナカオビツヤユスリカ

夏～秋に主に見られる生きもの



(オス)
アジアイトトンボ 体長 30mm

(メス)

ホンミオツネン
トンボ
体長 38mm

アジア
イトトンボ
のつがい

イトトンボ類
の幼虫

アオモンイトトンボ
体長 34mm



シオヤトンボ

体長 43mm

シオカラトンボ
体長 52mm

ハグロトンボ

体長 58mm

アキアカネ
(赤とんぼ)
の幼虫

アカネ類の
ぬけがら

ノシメトンボ
(赤とんぼ)
体長 44mm

ナツアカネ
(赤とんぼ)
体長 40mm

トンボ類

成虫、幼虫(ヤゴ)ともに肉食で、特に成虫はウンカやヨコバイ、ガなどの害虫も捕らえて食べる。幼虫は水中で生活する。特に写真で紹介した種は、田んぼや周りの水路、ため池などが重要な繁殖の場所となっている。



体長 7mm

ホウネンタワラ
チヒアメバチの
まゆ

カマバチの一種

体長 3mm

寄生蜂類

田んぼには、害虫に寄生する小型のハチが多く生息している。ムナカタコマユバチはカメイガの卵と幼虫に寄生、ホウネンタワラチヒアメバチはフタオビコヤガやイネツムシの幼虫に寄生、カマバチ類はウンカ類に寄生する。

ウンカに寄生するカマバチ
の幼虫

赤とんぼって、どんなトンボ？

「赤とんぼ」とは、体色が真っ赤になるトンボの総称で、多くの種がアカネ類の仲間です。赤とんぼは秋の風物詩ですが、アカネ類の成虫が出てくるのは6月下旬～7月上旬頃です。その時点の体色はまだ赤くなっていません。アカネ類は、夏の間は山や林など涼しいところに移動し、秋になると田んぼの周りに戻ってきます。その頃には、腹部は真っ赤に変わり、「赤とんぼ」になっています。



イナダハリゴモリグモ
(コモリグモ類)

キバラゴモリグモ
(コモリグモ類)

ナガコガネグモ
(コガネグモ類) 体長 23mm

イナゴをつかまえた
ナガコガネグモ

体長 9mm

ドヨウオニグモ (コガネグモ類)

体長 10mm

ヤマトコノハグモ (ヒメグモ類)
体長 6mm

ナカムラオニグモ (コガネグモ類)

フクログモ
の一種

セシアカムネグモ
(サラグモ類)

産まれたばかりの
子クモを背中にのせた
コモリグモの一種

キクツキコモリグモ
(コモリグモ類)

キヨヒメグモ
(ヒメグモ類)

体長 3mm

体長 3mm

ヨツボシヒメ
アシナガグモ

ハエトリグモ
の一種

ヤホシヒメグモ
(ヒメグモ類)

(メス) 体長 3mm (オス)

ハナクモ
体長 6mm (カニグモ類)

クモ類

肉食で、様々な害虫を食べる田んぼの代表的な天敵。コモリグモ類、ハエトリグモ類、カニグモ類は網を張らず、歩き回ったり待ち伏せしたりして獲物を捕らえる。コモリグモ類は春先からよく見られ、水面を上手に走る。トガリアシナガグモは滋賀県の田んぼではたいへん数が多い種で、イネの上方にいる。ナガコガネグモは田んぼではひときわ目立つ大型種。ヨツボシヒメアシナガグモ、サラグモ類、ヒメグモ類は小型で目立たないが、稲の株元周辺に多数生息する。



トガリアシナガグモ

体長 11mm

写真内の体長はメス成体のもの